

いじめ対策 アクションプラン

「いじめゼロ」のための3つの柱

- ★第1の柱 いじめをしない・させない・見逃さないためのきめ細かな指導
- ★第2の柱 居場所となる学級づくり
- ★第3の柱 地域とともに児童を育てるコミュニティスクール

① きめ細やかな指導

- 全職員の高い危機管理意識
→いじめは「度の学校でも、ど
の子にも起こり得ること」と
いう認識を持つ。
- 機能する校内支援体制
→「いじめのない梁小」に向け、
情報を共有化し、指導に生か
す。未然防止・早期発見・早
期解決に努める。
→いじめ対策委員会の開催

気づく目・見抜く目・見守る目
- アンケート調査の活用
→いじめアンケート（毎月）
心と体のアンケート（年2回）
Hyper-QU検査（年2回）

② 学級づくり

- 「いじめは絶対に許さない」担任の姿勢
→「だめなことはその場で直接指導する。
- 自己存在感・有用感もてる学級づくり
→個性や能力に応じた活躍の場
自信を持たせる言葉かけ
互いに認め合う『共創』の雰囲気づくり
- 縦割り班を生かした異年齢交流
→「にこにこタイム」の充実
上級生としての活躍と役割の自覚
（給食や清掃活動）
- 道徳教育の充実
→規範意識（善悪の判断）の育成
「心を育てる学校教育の日」の活用
- 集会活動の充実
→いじめ防止強調週間と人権週間
（学級いじめゼロ宣言の作成と掲示）
（人権意識・感覚を高める集会）

③ コミュニティスクール

- 家庭との連携
→アクションプランの周知（4月）
やアンケート調査の報告
→情報モラルに関して家庭と連携をする。
→「ノーテレビ・ノーゲームデイ」
の家庭への啓発をする。
- 地域との連携
→地域や保護者の願いに基づいた
教育活動を実践する。

・学校運営協議会
・学校支援地域本部
・PTA
→「コミュニティスクール通信」
を定期的に発行し、「開かれた
学校」づくりに努める。
→学校支援ボランティアと連携した
授業や学校行事の充実を図る。
- 関係諸機関との密な連携

笑顔あふれる梁小